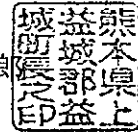


益建第 626号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

益城町長 住 永 幸 三 郎



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったこのことについては、別紙のとおり回答します。

☆高齢化社会に対応する道づくり

・日本社会の高齢化が急速に進み、現在まで整備してきた道路が、今後の社会情勢に対応できない状況が発生する可能性がある。特に地方においては、都市部と違い、公共交通機関の交通網整備が遅れているため、車を使った移動手段が主であり、道路整備が依然として重要となる。

特に、高齢者、障がいをもった人々が安全、かつ安心して移動できる歩行空間（ユニバーサルデザイン）の整備が必要と考える。

☆地球環境、住環境に配慮した道づくり

・近年マスコミ等でよく取り上げられる、梅雨時期における異常な降雨による水害や大型台風の襲来など、地球温暖化が影響していると考えられる事象が多くみられる。この異常気象を抑制し、また対処するため、ヒートアイランド対策として透水性舗装・保水性舗装の採用、排水施設への雨水流入軽減として、空隙率の高い排水性舗装の積極的な採用が必要と考える。また、前記の舗装を採用することにより、通行車両の騒音軽減が図られることから、市街地、住宅地等における環境の改善にも効果が期待できる。さらに、貯留、浸透機能を備えた側溝等を敷設することにより、河川への負担軽減や、地下水保全が可能と考える。

☆当町での取組み

・地下貯水＋地下浸透機能を持たせた道路側溝の敷設（浸透層までケーシングにより接続）により、流出先の無い側溝の排水が可能となっている。

②－１ 地域現状と抱える課題

熊本県上益城郡益城町

○現状 １ 災害時における安全な避難経路（道路）の確保 ・避難時に、浸水想定区域、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべりの危険箇所の地域を通行しなければ避難所に行けない集落がある。よって、災害により道路が寸断された場合、陸の孤島となり、集落が孤立する恐れがある。 ２ 道路の日常管理の煩雑化 ・道路の管理においてかなりの時間を費やし、日常の業務に影響が出ている。道路の日常管理を地域で可能なことがあれば地域で行う必要があると考える。	○課題 １ 代替道路の整備が必要であるが、税収等の減収により、整備のための財源が不足している。また、極端に交通量が少ないことにより、補助金・交付金事業の対象とならないため、整備ができない現状がある。 ２ 従来の村社会では、地域の生活道路の管理（除草等）は地域で行われてきた。しかし近年の都市化や、農業の高齢化・衰退により農耕地周辺においても管理ができないところが出てきている。地域で管理するには、人や、その他作業機械の確保が必要となっている。
---	--

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

熊本県上益城郡益城町

②－２ 地域の目指すべき将来像

☆これからの道路整備は災害に強いネットワーク造り、人・地球環境にやさしい道づくりが必要と考える。

☆地域の実情に応じた整備を行い、沿線住民自らきれいにしたいという気持ちになる道づくりが必要と考える。